福井厚生病院における勤務医負担軽減計画

目標
当院では、従来より、勤務医の勤務状況を把握し、改善すべき点については、各診療科の責任者への指導により対応してきたが、
勤務医の負担軽減を進めるためには、コメディカルを含めた各診療部の協力体制が必要であることから、平成20年度より、
医政局の役割分担通知に基づき、医師が担っていた業務等の他職種への分担を進めており、
今回も、[医師には医師本来の業務に専念してもらうことを目的とし]これを推し進めることを目標とする。

分野	現状	2024年3月までの目標	目標達成のために必要な手順	目標達成年次
医師事務作業補助業務の確立	医師が本来の診察業務に専念できていない。また、医師が医師事務作業補助者を活用できていない。	医師に対して、医師事務作業補助者が可能な業務を伝える。 アンケートなどを通じて、これまで医師が行ってきた雑務のうち、対応可能なものは医師事務作業補助者が実施できることを徹底し、医師事務作業補助業務の確立、拡大(病院内での位置づけ及び外来での業務内容の拡大)を図る。	■定期診察の対応(事前準備)や診察補助 内科総合外来の代行入力を毎日に拡大。ストレスケア科、循環器科外来の曜日毎の定期的な代行入力、消化器・一般外科外来などへ随時代行入力対応を行う。	実施済み (2023年度も継続)
			■整形外科診察への対応 転院情報の入力、入院予約及び検査指示、リハビリ依頼書の更新、診断書作成などを行なう。	実施済み (2023年度も継続)
			■入院診療計画書の作成 入院後3日以内での作成を目指し、医師と(下書きを含めて)協調していく。	実施済み (2023年度も継続)
			■退院時要約の作成 希望される全医師について原則退院日の翌日に作成(下書き及び承認)を実現させる。	実施済み (2023年度も継続)
			■入院証明書等書類全般の作成 入院証明書等書類全般について下書きを作成し、医師に内容の確認を依頼する。 H28.5～自賠責保険診断書下書きの作成開始。R3.6～自立支援診断書下書きの作成開始。	実施済み (2023年度も継続)
			■透析患者さんへの定期検査の事前入力 (H26.1より電子カルテへの事前入力補助を開始している。)	実施済み (2023年度も継続)
			■診療情報提供書 医師にアンケートを実施し、H28.5より(紹介受診事前準備として)紹介状の他院での投薬内容の事前入力を行っている。	実施済み (2023年度も継続)
			■予約変更への対応 診察・検査等の予約変更に対し、指示入力の代行入力を行っている。	実施済み (2023年度も継続)
各診療科ごとの取り組みの促進	各職種の業務分担が不明瞭である	マニュアルによる診療の確立と見直し	術前説明・検査説明・退院後の調整など、手術・入院に関するマネジメントの標準化	実施済み (2023年度も継続)
		常勤医師と非常勤医師の柔軟な協同体制を構築する	従来非常勤医師のみであった診療科(泌尿器科)に常勤医師を配置することで、双方に活躍してもらえる役割分担や働き方を構築する	実施済み (2023年度も継続)
		新専門医制度への積極的参加	福井大学附属病院、福井赤十字病院との連携を図る。	実施済み (2023年度も継続)
		医学部学生への教育に積極的に関わる	医学部実習生を積極的に受入れる。	実施済み (2023年度も継続)
医師の確保	若手医師が不足し、ベテランの常勤医が疲弊している	卒後研修医の積極的な受け入れを行う	福井大学医学部附属病院を始め、福井赤十字病院・金沢大学医学部附属病院からの受け入れを行なう。	実施済み (2023年度も継続)
		整形外科・外科・消化器科・神経内科・精神科・放射線科をはじめとする常勤医師、及び若手医師の確保	医師紹介会社を利用した求人活動の継続	実施済み (2023年度も継続)
		育休明けの職員の子どもを対象に、院内保育園を設置。	土曜日・祝日のみの開所だが、ニーズに応じて適宜対応を行なう。	実施済み (2023年度も継続)
		一部の医師に業務が偏らないよう、公平性を担保する	雇用契約時に業務内容の詳細を文書にて提示し、総合外来・専門外来・病棟管理業務に加え、考えられる支援業務をできる限り掲載する。	実施済み (2023年度も継続)
		育児・介護休業法第23条第1項、同上第3項又は同法第24条の規定による措置を活用した短時間正規雇用医師の活用	人事課による既存制度の説明を行なうとともに、周知を実施して利用者の拡大を図る。	実施済み (2023年度も継続)
		育児休業制度の取得	人事課による制度の説明を行なうとともに、周知を実施して利用者の拡大を図る。	実施済み (2023年度も継続)
		当直前日及び当直翌日の業務内容に対する配慮	当直前日及び翌日の業務を軽減して休息の確保を行なう。	実施済み (2023年度も継続)

分野	現状	2024年3月までの目標	目標達成のために必要な手順	目標達成年次
救急救命士の活用	救急医療に特化した場面において、医師へのアシストが不足している	ホットライン対応において、救急隊からのスムーズな受け入れを行なう。	消防の救命士と無駄のない情報交換を行い、受け入れ決定を迅速に行う。また、救急隊到着時には患者搬入を迅速に行う。	実施済み（2023年度も継続）
薬剤管理	病棟での薬剤師の活動が限られている	薬剤師の病棟常駐時間を増やす。	採用活動を活発に行い、常勤薬剤師を獲得する。また、子育て中の薬剤師もいるが現状を維持できるよう業務調整する。	実施済み（2023年度も継続）
	手術予定患者の持参薬の確認・管理	予定とおり手術が行えるように、患者に服薬の中止や説明を行なう。	外来予定手術患者への抗凝固薬、抗血小板薬、凝固に影響するサプリなど服薬面談で確認。	実施済み（2023年度も継続）
	薬用量、使用法、相互作用など処方内容の確認	薬用量、使用法、相互作用など処方内容の確認を行なう。	院外処方についての疑義照会で発生した処方の修正作業を医師との合意の下、薬剤師のダブルチェックにて実施。入院内服・注射オーダーに関しても行っている。	実施済み（2023年度も継続）
	医師への情報提供	副作用情報等の医薬品の情報の集約と医師への情報提供を行なう。	医薬品医療機器総合機構（PDMA）からの医薬品安全性情報の連絡を、メール受信後速やかに行うよう徹底する。	実施済み（2023年度も継続）
	硬膜外麻酔薬の定速ﾊﾞﾙｰﾝ容器への薬剤調製。	手術前の硬膜外麻酔薬の調製を依頼あるものは全例行っていく。	一般的な点滴と違い、特殊な容器への調製なのでこれの調製手順を作り、調製時間を確保していく。	実施済み（2023年度も継続）
医療機器管理	医療機器中央管理室の移動に伴い、管理機器が増加。貸出・返却も以前と同じ方法では対応困難となってきている。	機器管理システムを導入し、運用状況や点検スケジュールなどの一元管理を充実させることで、用度課とも連携し購入から破棄までの情報共有ができるよう努める。	台帳類の整備をする。システム運用のイメージを課内でつくり共有する。	2023年度
検査手順の説明の実施	一人当たりの外来診察時間が限られており、検査結果の説明に十分な時間がかけられない。	糖尿病教室や糖尿病教育入院血糖コントロール入院で検査説明および相談が出来るような体制を整える。医師の意向を聞き、確認するだけで済むように、生理検査のレポート作成している。	検査説明がどこまで可能であるか協議し、医師からも利用を勧めてもらう。 利用者が増えるよう、ポスター掲示など広報活動を行う。	実施済み（2023年度も継続）
検査業務	糖尿病教育入院やFGMデータの取り込みを行っている。NST・ICT・褥瘡回診などにおける診療支援業務が不十分である。医師の依頼による写真撮影・病理結果至急報告などに対応している。	NST・ICT・褥瘡回診・病理業務などにおける診療支援業務のさらなる充実を図る。	NST・ICT・褥瘡などのチームにおいて、検査技師が行う業務を再確認し、充実させる。病理業務の写真撮影・切り出し・至急結果報告・細胞診報告など臨床支援を充実させる。	実施済み（2023年度も継続）
栄養業務	一般食の変更は管理栄養士が行い、主治医が確認している。また、治療食に関しては適切な栄養管理が実施できるよう医師に情報提供を行っている。	ミートランドを行い、他職種と連携しながら医師への情報提供を増やす。	病態を把握し、個々に合った栄養管理ができる管理栄養士の育成。	実施済み（2023年度も継続）
	管理栄養士は、入院患者の栄養管理として、[病棟担当制]としており、適切な栄養療法を実施するように努めている。	病棟での滞在時間を延ばし、栄養面の情報収集を行い主治医に報告する。	入院時カンファレンス・カンファレンス参加にて情報を発信したり、情報共有を行う。	実施済み（2023年度も継続）
	食事オーダーに関してのインシデントが発生している。	医師の食事オーダーが正確に行われているか、確認する。	オーダーミスに陥り易い項目を医師に発信する。	2023年度
勤務環境改善	メンタルヘルス窓口を担当している職員が異動・退職となった	メンタルヘルス窓口の恒常的な運営	臨床心理士の積極的採用を通じて、職場のメンタルヘルス相談窓口の恒常的な運営を行なう。	実施済み（2023年度も継続）
	メンタルヘルス窓口は恒常的に心理士が担当しており、必要時に労働安全衛生委員会で状況を報告している。	メンタルヘルス窓口としての役割と産業医や労働安全衛生委員会との連携体制を整える。	労働安全衛生委員会へ継続的に参加し、必要時に状況報告、窓口運営についての意見交換をしていく。	実施済み（2023年度も継続）
心理業務	医師の指示の下、心理検査や心理カウンセリングなどの心理業務は心理士が実施している。	現状の継続。	医師と連携する機会を作る。 継続的に研修会などに参加し、知識向上に努める。	実施済み（2023年度も継続）
地域の医療機関との連携	退院支援業務の更なる実施	退院支援業務の強化	退院支援業務の強化のため、（退院支援加算1を通して）看護師、社会福祉士の配置及び業務の継続。	実施済み（2023年度も継続）
	医療連携センターの恒常的な運営を行うために目標指数を設定しているが、逆紹介について検証できていない	1.医療連携センター相談件数（前方・後方支援）のUP及び逆紹介率の算出を行う 2.病院との連携を蜜に行い、紹介率を上げていく	広報担当者による定期的な病院・医院への訪問と情報提供を行う。	実施済み（2023年度も継続）
	高齢者の入院期間が長期化することがある。	1.入院期間の長期化を防ぐ 2.第1医師会福井安心ネット終了しているが、相談を継続し対応していく。	既に介護サービスを利用している場合は、CMと連携し、退院後の適切なサービスの提供に努める。介護保険サービス未使用者に関しては導入への支援を行う。	実施済み（2023年度も継続）
		医師の書類が遅延無い様に支援する	連携医へのすみやかな診療情報提供書の送付。	実施済み（2023年度も継続）
		福井メディカルネットの活用	福井大学医学部附属病院の医師と連携した、スムーズな活用を試みる。	実施済み（2023年度も継続）

分野	現状	2024年3月までの目標	目標達成のために必要な手順	目標達成年次
入院の説明の実施	入院の説明は医療連携センターにて実施している	入院時支援体制の整備	（入院前を含めて）入院時支援を実施することにより、早期に退院支援に関する課題を明らかにし、医師が早期から患者・家族の意思決定支援に介入する。	実施済み （2023年度も継続）
初診時の予診の実施	初診時の予診は医事課職員が実施している	問診を行なうことで、医師の診察時間の短縮につなげる	同左	実施済み （2023年度も継続）
静脈採血等の実施	静脈採血等は看護師、臨床検査技師が実施している	引き続き実施する	採取場所の確保及び感染対策の徹底	実施済み （2023年度も継続）
タスクシフトへの取り組み	タスク・シフト／タスクシェアの推進	臨床工学技士、診療放射線技師、臨床検査技師の活用	医療関係職がより専門性を活かせるように、業務範囲の拡大を検討する。	実施済み （2023年度も継続）